

## 第四章 聖書・神の啓示として

### I 神の啓示の形態

聖書は神の本質、働き、計画の啓示として意図されている。創造主がご自身を啓示し、また人間がその創造主を知ろうとすることは当然である。神はご自分を啓示なさるのに三つの主要な方法を用いられた。

#### 1、創造における神の啓示（ローマ 1：20）

自然界は神が無限の力と知恵の神であることを明らかにしている。しかし、神の愛とか神のきよさは明確には示されていない。自然界は異教世界に対する神のさばきの理由としては十分であるが、神と罪人が和解できる救いの道は示されていない。

#### 2、キリストにおける啓示（ヨハネ 14：9）

キリストは、神を、人間が理解できる形で啓示するために来られた。キリストの人格とみわざのうちには神の力、知恵、愛、善、聖、恵みが啓示されている。

#### 3、みことばにおける啓示

みことばはさらに明白な形で神を啓示している。キリストを提示するだけでなく、歴史の展開の中でイスラエルと諸国、教会についての計画と関連する事柄を取り上げている。聖書は、創造における神の啓示を確証し、キリストにおける神の顕現についての唯一の記録を提供し、三位一体の神、御使い、悪霊、人間、罪、救い、恩恵、栄光に関する神の啓示を詳しく述べている。

### II 特別啓示

人間の歴史を通じて、神は特別な啓示を与えてこられた。神が人間に特別に語りかけられたことが、聖書には記録されている。聖書の完成とともにこの種の特別啓示は終わったように見える。現在ではこの特別啓示に代わって御霊の働きが顕著である。

#### 1、御霊によって書かれた書物（I コリ 2：10）

聖書は神が御霊によってみこころを啓示された書物である。聖書を通して神のみこころを知るには御霊の働きが大切である。

#### 2、御霊による照明（I コリ 2：11－13）

私たちは、信仰をもったときに聖霊に導かれました。また、キリストを信じたとき聖霊を受けています。その聖霊がみことばに光をあて、みこころを明らかにしてくださるのです。御霊は、聖書の真理を理解し、各々の生活に適用することを助けます。

### 3、御霊によって読むことの大切さ（I コリ 2：14）

聖霊の導きなしに聖書を読むとき、その真意は閉ざされている。私たちがみことばを学ぼうとするとき、そこに聖霊の働かれる土壌として、神との親しい交わりがなくてはならないのである。

## III 解 釈

聖霊の照明と導きが神の働きであるにしても、誤りやすい人間がそれを受けるとき、聖書のような無謬性をもたない。しかし、聖書解釈の原則を知ることによって、その助けをすることができる。

### 1、全体として見た聖書の目的

すべての箇所は聖書全体の内容に照らして考察されなくてはならない。

### 2、聖書各書の特別な使信

特定の書の目的を考慮に入れなければならない。

### 3、誰に宛てて書かれたか

第一義的適用と第二義的適用。前者は聖書の書かれた直接の宛て先への適用。後者はそれを超えての一般的適用。ほとんどすべての場合にこれがある。

### 4、前後関係

関係する聖書箇所の前後の文脈を考慮する。

### 5、神のことばの他の箇所に見られる類似した教え

その箇所で述べられている真理は、他の箇所ではどのように述べられているか。矛盾なき神のことばは、互いに相補う役目をはたす。

### 6、特定の聖書本文の用語の正確な釈義

ほとんどの目的のためには良い訳本があれば十分であるが、より正確さを求めるなら原語の釈義が必要である。一般には信頼できる注解書などで助けを得られる場合が多い。

また、用語はほとんどの場合、字義的に解釈するべきで、正当な理由のないかぎり比喩的に解釈してはならない。

### 7、偏見をもたないこと

聖書を解釈するときに、ある事柄を証拠だてようと聖書を用いてはならない。あくまでも聖書によって神学がたてられなければならない。すなわち、私たちは神の導きに柔軟である必要がある。